

まなび通信



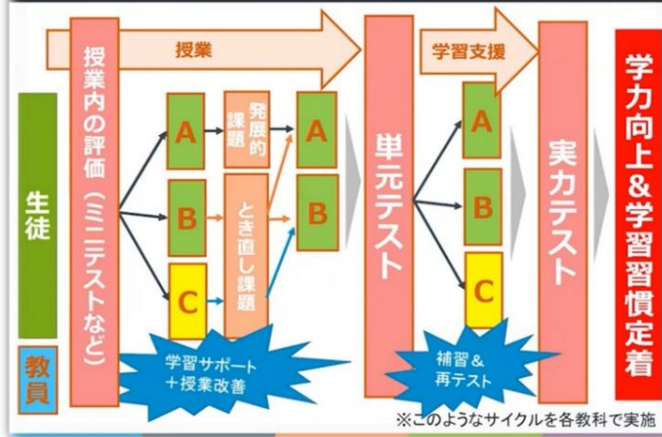
R6年度 2学期号
発行者:小津中 まなび担当

全国学力調査より 小津中の学びを検証 46期生の成長と小津中のこれから

今回は、現3年生(46期生)が、小津中学校の3年間でどのような学びをしてきたのか。それによって、どのような力が身についたのかを見ていく中で、小津中学校の取り組みを検証したいと思います。

小津中学校では、生徒の学力を高めるための大幅な「学びの改革」を令和3年度から行っています。その1つが、定期テストの廃止です。きめ細やかな評価と、学習内容の着実な定着をめざし、単元テストと授業内の評価をもとに何度も学び直すことができる「学びのサイクル」をつくってきました。

(例:数学) 授業→評価→学習支援 の流れ

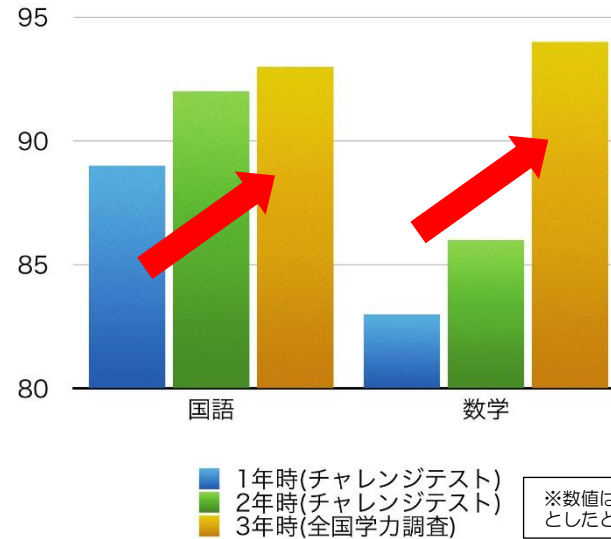


また、今年度は「OSU チャレ OSU サポ」の運用を昨年度から変更。1学期、各家庭にまなび通信を配布し、周知してきました(左)。基本的に火曜6限を OSU チャレとし、全員が自分で自分の学びを進める「授業時間」にしています。さらに、基本的に火曜終礼後を OSU サポとし、評価に応じて、先生に呼ばれた生徒が、必ず参加し学習する「補習授業」を行っています。各学年で生徒の実態に応じた学習支援体制を検討しながら運用を進めています。2学期以降も、個々の学習状況に応じた学習支援体制を充実させていきます。

46期生は、こういった小津の学びのサイクルの中で、1年時から学習に取り組んできました。その結果が、4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果にも表れています。3年間かけて着実に学力を伸ばしてきたことが分かります。

「自芯をもつ・認め合う・0から1を創る」を大切に、さまざまな教育活動や学習面でのさらなる成長を期待しています。

★現3年生(46期生) 学力の推移のグラフ



**1年時→2年時→3年時
2教科とも右肩上がり!**

**特に学年としてこれまで
苦手意識のあった数学では
大幅に学力が上昇!!**



★学力調査の結果から見た考察

成果 ①【国語】記述式の問題の正答率が高い!!

(例) 問1四《他者の意見と結び付けて自分の考えをまとめる》 府比+4.8

日頃の授業から自分の考えをアウトプットする場面があり、記述力が身についたと考えられます。また、国語の正答率を問題形式別でみると、選択式/短答式/記述式のうち、「記述式」の平均正答率は府平均とほぼ同じでした。抵抗感なく記述できる力が備わってきたことが、この結果からうかがえます。

②【数学】演習や積み上げでの定着 = 正答率が高く、無解答率が低い!!

(例) 問7(3)《複数集団のデータ分布から四分位範囲を比較できる》 府比+8.0 全国比+4.5

トレーニングを積んだり、仲間と学び合いや課題解決をしたりする授業に意欲的に参加してきた結果であると感じました。何度も反復演習する中で、自信がついたと感じます。この問いは無解答0.0でした!

この一方で、無解答率の高い問いもありました。小津中の学校のコンパス「卒業時にめざす姿」の意識=失敗を恐れず挑戦し、粘り強く問題(課題)に取り組む姿勢を、引き続き日々の授業で高めたいです。

課題 知識技能の定着にムラ (できている問い/できていない問いに極端な差) がある!!

(例) 国語: 問4三《行書の特徴の理解》 府比-10.4 全国比-10.2

数学: 問2《等式を目的に応じて変形できる》 府比-10.8 全国比-10.7

昨年・一昨年同様、小津中学校全体の課題であるのが、知識・技能の定着や積み上げです。

思考・判断・表現の力を獲得していく上でも、知識・技能の力の獲得は重要です。これまで以上に、学校として“知識・技能の確実な獲得”に向けた体制づくりが求められます。

昨年度より、本校では、知技の定着と忘却に強い AIドリル「モノグサ」を採用し、活用しています。今後も、授業をはじめ、OSU チャレ OSU サポ/家庭学習などでも、積極的に活用していきます。

まなび通信 大阪府立小津中学校 R6年度 2学期号 発行者:学力向上担当

OSU チャレ・OSU サポ で自分を高めよう!

小津中学校では、各教科の授業と同じく、OSU チャレ OSU サポの自学時間も大切にしています。2・3年生は昨年度も OSU チャレ OSU サポの時間を過ごしてきましたね。ただ、小津中学校のすべての生徒の、学習保障や学力向上に向けて、より実りの多い時間にするために、体制の運営方を今年度リニューアルしました。

ここで今年度の OSU チャレ OSU サポについて中身の確認をしておきましょう。

【OSU チャレ】※基本的に火曜6限
自ら選んだ各教室に分かれて、全員が、自分で自分の学びを進める「授業時間」です。
- 次回の単元テストや実力テストに向けてなど、自分で学習内容を決めて学びを進めます。
- また、次回の単元テストについてなど各教科で聞かれる学習教室(例:OSU チャレ国語/OSU チャレ数学など)に参加し、定数からの参加ポイント(授業のおおらい)を聞きながら学習内容の確認をしたり、先生へ学習内容の質問をしたりする時間として活用されます。
- OSU チャレの時間では、自分の強み(得意な教科など)を伸ばす、自分の弱み(苦手な教科など)を克服していくなど、自分が進めたい学びを自分で選択し、学習を進めていくことが大切にされています。

【OSU サポ】※基本的に火曜終礼後
評価に応じて、先生に呼ばれた生徒が、必ず参加し学習する「補習授業」です。
- 前々(前々)の単元テストなどの結果をもとに、学習支援が今すぐに必要と判断した生徒を先生たちが呼びます。呼ばれた生徒はその単元テストの中で「最低得点に達していない内容」を分かってきたら必ず参加し復習します。
- 単元テスト以降にも、教科の授業(学習内容)で定着やサポートが必要と感じる生徒に関して、OSU サポへの参加もありません。
- OSU サポは終礼後に行われます(30分間)。
- 授業と同じように呼ばれた生徒は、必ず参加が必要です。
- 授業の放課後の3時35分までは予定を入れないようにして下さい。
- 勝手に来校したり参加したりする生徒には、保護者の方へ連絡する予定です。

今年度も、生徒のみんなに「自分で学び進める力」を身につけてほしいと思います。一人ひとりが「今、自分に必要で必要な学び」を、どう進めていくかを見極め、実践していく力をつけていくことが大切です。また、時間を無駄にせず、その時間と意欲を活かしながら、コツコツ学び進める力が求められます。

そのため、今年度も小津中の先生たちは、生徒のサポートや「得意(いーしょ)に頑張っていく」の気持ちを大切に、質の学びを支援していきます。着て充実した学びを動いていきましょう!!

【重要】保護者の皆様へ

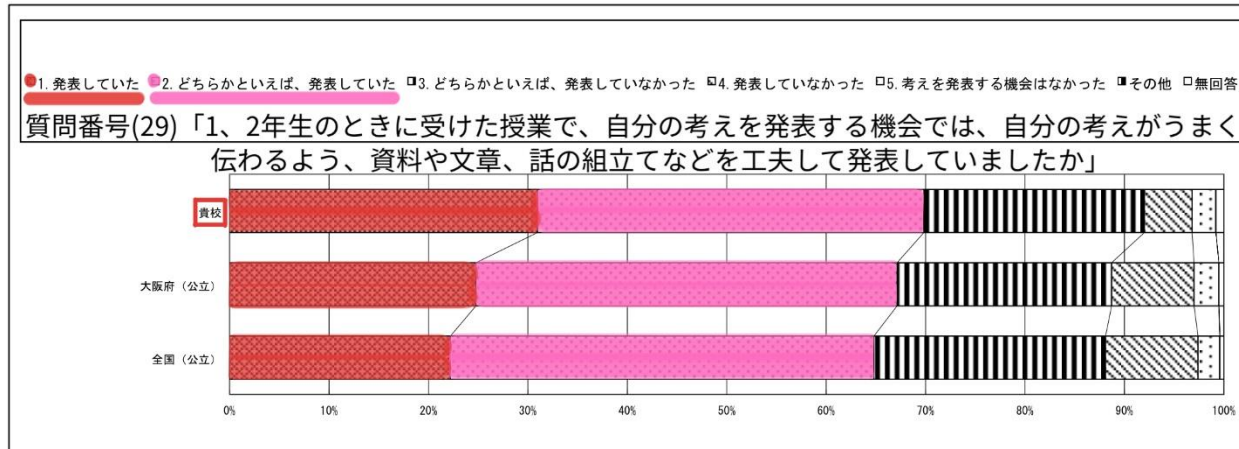
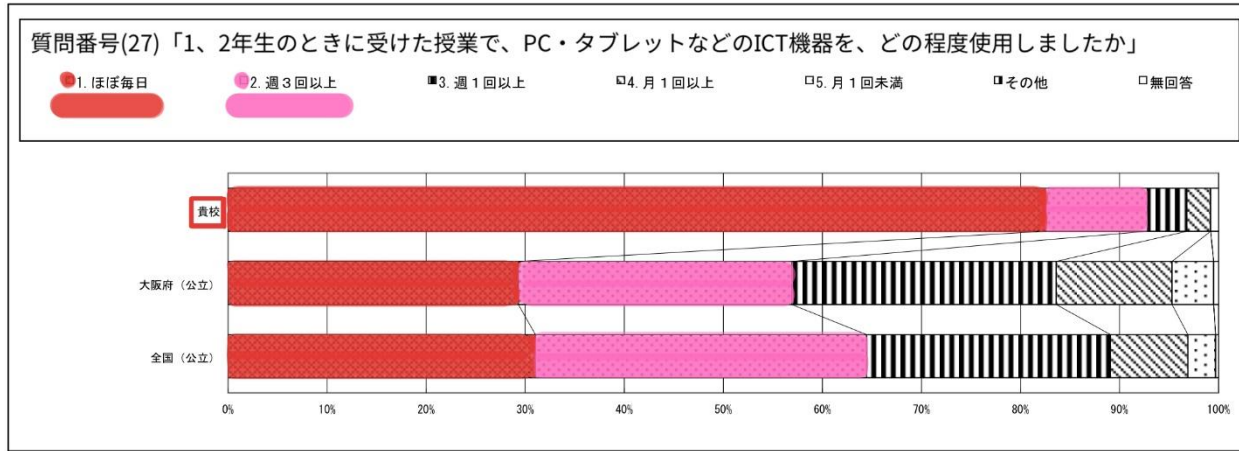
平素は本校の教育活動へのご理解やご協力賜り、ありがとうございます。本校ではこれまで、教職員で話し合い OSU チャレ・OSU サポという学習支援体制を充実させてきました。今年度は、ノーラプデーである火曜日の放課後に OSU サポを行い、教員全員で一元化して学習サポートを実施いたします。

この OSU サポの時間(課題30分程度)に授業生徒が頻りに帰ってしまうことがないよう、ご家庭でもお子様とご確認ください。なお、帰ってしまった場合などご家庭へ連絡する場面もあるかと思いますが、その際は、ご協力をお願いします。

★学力調査のアンケート結果から見た取り組みの成果

69項目のアンケートに生徒は回答しました。その中で、特に大阪府や全国と数値に差のあったもの、小津中学校として結果をもとに考察を深めたい4つの項目について示します。

【成果が表れているもの】



ICT活用は小津中学校の強みです。さまざまな教科・領域で活用が見られます。生徒が主体的に活用する場面も多く、“学習の文房具”としての充実した機能を果たしています。

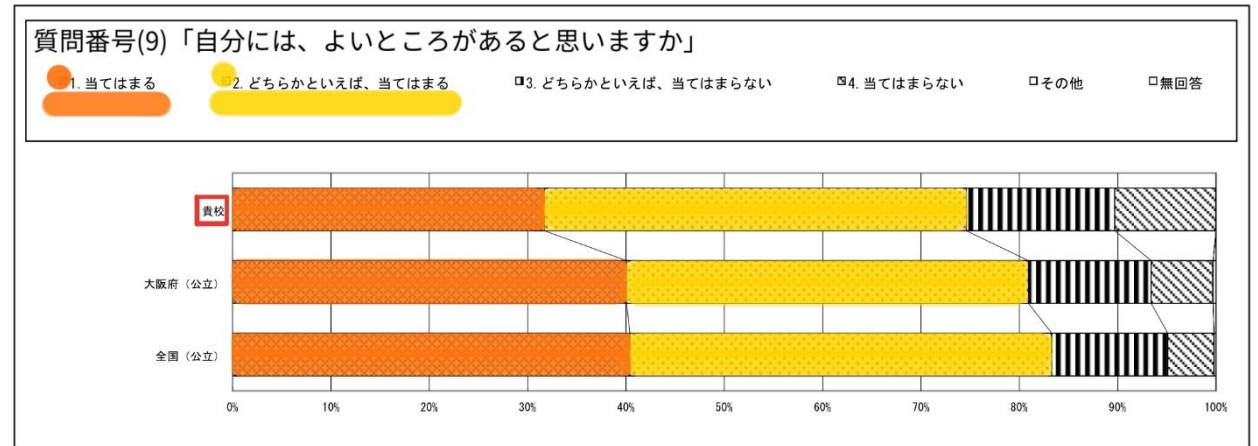
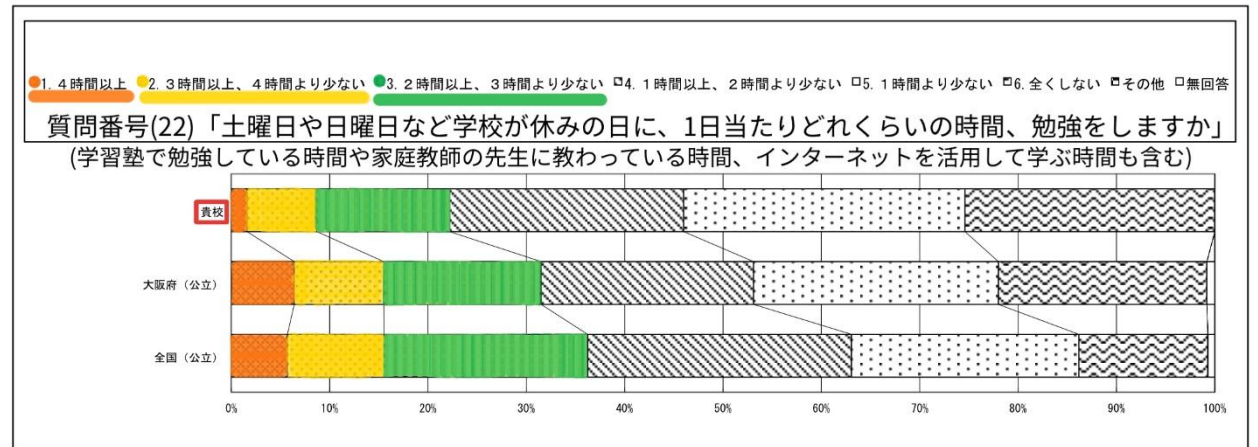
また、**相手意識や目的意識をもちながら発表する授業づくりを進めることもできています**。その際にも、タブレットを有効活用しています。**情報活用能力と言語能力の育成を今後も継続したい**です。



家庭学習面では、学校が休みの日の学習状況に課題が見られます。休みの日の学習が疎かになってしまうと、学習の定着が薄まるのが考えられます。**自立・自律した家庭学習**を求めていきたいと感じています。

また、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、小津中学校のさまざまな教育活動を通して**成功体験**を積み重ね、**自己肯定感を高めていければ**と感じています。

【課題が見受けられるもの】



★小津中学校 今後も進める学びの方向性

*小津中のさまざまな学びが繋がっていく授業づくり

「知識技能の獲得をめざした取り組み」「教科の授業」「共創プロジェクト等の学び」がそれぞれバラバラに存在するのではなく、**繋がりをもちた学びとなるよう、引き続き学びの充実をめざします**。

身につけた知識技能の力が、思考判断表現の力の発揮に繋がることが大切に、より豊かな学びを創っていきます。

*生徒も先生もワクワクする授業づくり

生徒だけでなく、先生もワクワクする(興味関心が高まっていく)授業をめざし、日々の授業改善・先生同士の授業相互参観・校内研修会・小学校の先生方との授業づくり交流会を今後も進めます。

また、『**自芯をもつ・認め合う・「やわらかさ」で0から1を創る**』を授業内でも日常的・継続的に意識していきます。

【共創プロジェクト等
(授業や学校を超える学び)
個々に学び進め、深め、発信する



【教科の授業
(授業内容がわかる))
全員で学びを進め、定着へ

【個別最適学習
(基礎基盤づくり))

OZUチャレ・OZUサポ
モノグサ等で知識技能の獲得